

同窓会会報

第9号



《坪井記念館》



《生命先端工学専攻生物学コース研究棟と
GSE コモン・ウェスト棟およびイースト棟》

大阪大学工学部
醸造・醗酵・応用生物工学科
同窓会
平成18年9月

同窓会開催のご案内

- 開催日 平成18年11月10日(金)
場所 大阪大学中之島センター7階 <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53 電話:06-6444-2100
- 15:30 見学 1階エントランスホールにご集合下さい
○16:00 総会
○16:30-17:45 講演会
講演者 新名 惇彦 昭和40年卒業
[植物力]
古園 さおり 平成3年卒業
[「好アルカリ性因子」として見いだされたマルチ遺伝子型
Na⁺/H⁺対向輸送体(Sha 輸送体)の多機能性]
平野 美紀 平成18年卒業
[大阪大学- KAIST 2006年 日韓学生交流会]
○18:00-20:00 懇親会 関電会館パーティールーム5・6号室
大阪市北区中之島三丁目6-16 関電ビル内 電話:06-6441-6800(取次ぎ)
田蓑橋南詰から国際美術館方面に向かってすぐ
会費 1万円

大阪大中之島センターのアクセスマップ(12ページ)をご参照下さい

出欠を同封の用紙にてFAX、E-mailまたは郵送でお知らせ下さい。

本年度の同窓会是中ノ島センターで;

大阪大学は2001年に創立70周年を記して、旧医学部跡地に、2004年4月中ノ島センターが開設しました。本年度はこの中ノ島センターで行うことにいたしました。同窓会としまして、同窓会名称、会長などの問題があります。新しい大阪大学の拠点のご見学とともに、同窓会にご出席いただければ幸いです。

幹事長 関 達治

☆ 目次

関東支部が発足しました	廣野辰彦	1
生命先端工学2年目を迎えて	福井希一	2
植物力	新名惇彦	3
「好アルカリ性因子」として見いだされたマルチ遺 伝子型 Na ⁺ /H ⁺ 対向輸送体(Sha 輸送体)の多機能性	古園さおり	4
大阪大学- KAIST 2006年 日韓学生交流会	平野美紀	5
同窓会通信		7
平成17年度同窓会会計報告		13
同窓会会則		14
会員の動向		15
教室の構成		18

関東支部が発足しました

昭和３７年卒 廣野辰彦
(アサヒビール株式会社 社友)

かつて高原義昌氏(昭和21年卒業)、島下昌夫氏(昭和31年卒業)はじめ教室の卒業生有志によって「醗酵首都圏同窓会」がつくられ、平成13年まで毎年秋に「バイオテクノロジーセミナー」が開催されていました。その後5年間、事情によりこの会合は開かれていませんでしたが、このたび関東在住の卒業生の中から、その趣旨を継承しつつ、大阪大学工学部醸造・醗酵・応用生物学同窓会(長い名前ですね！)の関東支部として新たにスタートしようじゃないか、との希望が寄せられました。

そこで昨年吹田での同窓会に出席した機会に、幹事長の関先生にご相談したところ、多くの卒業生が関東で活躍していることだし大賛成だ、全面的に応援するよ、との力強いおことばをいただきました。幹事の先生方には、学生の卒業、新入生を迎えるお忙しい日程の中を名簿の整理、ご案内の発送、会計などの諸準備にご助言とお力添えをいただきました。

会場の手配、当日の運営は関東在住の古手若手のチームプレーで、5月25日、学士会館で「2006バイオテクノロジーセミナー(東京)」が開催され、関東支部が無事スタートしました。ご出張先から会場直行でご挨拶いただいた関先生、「醸造学からフロンティアバイオへ」と題して教室の現状と展望も含め熱いご講演を賜った原島先生はじめ、関西から激励に駆けつけてくださった諸先生、地元関東の卒業生有志諸兄姉に感謝あるのみです。ご案内から開催まで大変短かったため、残念ながら先約でご参加が叶わなかった方々にはご迷惑をおかけしましたが、若い現役世代を含む多数のご参加があり、来年も5月下旬に東京で開催しようということになりました。

伝統的な醸造学から最新のバイオテクノロジーをつなぐ技術の流れを担う母校の発展に寄与し、また母校を離れ関東で仕事をしている若い世代の卒業生に魅力のある交流の場として、本同窓会のバイオテクノロジーセミナーが今後も発展するよう、東西相呼応し、老若(?)有志力を合わせて進めていきたいと願っています。



関東支部会場の様子

生命先端工学２年目を迎えて

生命先端工学専攻 専攻長
生物工学コース長 福井希一

応用生物工学専攻は物質生命工学専攻と一緒に他大学に例を見ない新しい専攻、生命先端工学専攻としてスタートし2年目となりますが、昨年度は物質生命工学講座の福住俊一教授が勤められた専攻長の大役を、今年度は生物工学講座側より私が仰せつかることになりました。平成16年度秋に完成、生命先端工学専攻からは3つの研究室が入居した15階建てのGSEコモン・イースト棟も、工学部のランドマークのように馴染んでまいりました。学生たちからは「ガンダム棟」との愛称ももらっている様です。今年春から始まった工学部各棟の改修工事により工学部の風景は徐々に変わってきておりますが、この秋には旧応用生物工学専攻の建物である工学部 C3 および C2 棟でも改修工事が開始される予定となっております。

生命先端工学専攻の中で、生物工学コースでは、生物が持つ多様な機能を解析し、その特性を、様々な有用物質生産、地球環境の保全、さらには創造を物理、化学と融合した新しい生命科学の工学的な観点で行う先端的バイオテクノロジーを創出する教育と研究を行い、21世紀の人類に課された地球的規模の課題を解決し、持続的な発展に国際的に大きな貢献ができる人材の養成と世界トップレベルの質の高い研究を発信することを目的としております。平成17年度の実績をみますと、留学生も含めて博士課程在籍率は150%と非常に高くなっており、これは専攻の教育研究レベルが非常に高いことを示しています。

平成18年8月現在、生命先端工学専攻生物工学講座には兼任を除いて、教授6名、助教授5名、講師1名、助手8名(内学内講師1名)の教員がおります。学部の応用生物工学コースおよび大学院の生物工学コースの教育は、これら生物工学講座の教員に加えて、物質生命工学講座の極限生命工学領域の3名の先生方、生物工学国際交流センター所属の6名の先生方、情報科学研究科バイオ情報工学専攻所属の5名の先生方、および産業科学研究所高次細胞機能研究部門の1名の先生が協力して実施致しております。この他、生物工学講座とその関連講座には、特任教授3名、特任助教授2名、技術職員・事務職員5名、事務補佐員17名、加えて、多くのポスドクや非常勤職員の方々が働いております。一方学生は、英語コース所属の大学院生も含めますと、博士後期課程に53名、博士前期課程に87名の大学院生が所属しており、学部4年生は62名在籍しています。

さて、生物工学講座および関連講座におきましては、この一年の内にいくつかの人事異動がございました。平成17年度末には、生物資源工学の林誠助手が退職されドイツ、ミュンヘン大学教授に着任、細胞工学の梶山慎一郎助手が退職、物質生命工学講座の客員助教授に着任されました。また、生物共生情報工学の四方哲也助教授が教授に昇任、専攻事務では比嘉康人図書職員が大阪大学海外拠点のタイのバンコクへ異動、その後任に中村京子主任に着任されました。

今後とも生物工学講座の発展のため、同窓の諸先輩方の御支援を賜わりたくお願い申し上げます。

植 物 力

昭和 4 0 年卒 新名 惇彦
(奈良先端科学技術大学院大学 教授)

世界人口は 2000 年に 60 億人を越え、2050 年には 90～95 億人と予測されている。これに対して世界の穀物生産量は 1990 年から 2002 年の 12 年間、年間 17.8 億トンから最高の 19 億トン(1998 年)の間で、ほとんど増えていない。異常気象のため世界各地で不作が報じられている。人口 13 億人の中国の工業発展が著しく、労働人口の 85%を占めていた農業者の多くが土地を捨て、高い収入を求め都市へ流れているため、農業生産が減るといふ人為的要素もある。したがって1人当たりの年間穀物生産量の世界平均は 1984 年の 340kg をピークに減り続けている。このままでは 2015 年には、生命維持に必要な 250kg/人を割る。

食糧増産の切り札は遺伝子組換え(GM)技術である。交配育種では時間がかかり過ぎる。一生動けない植物は環境から様々なストレスを受け、植物が本来持っている生産力は激減している。米国の農業でも植物の最大能力の 22%しか収穫していない。昆虫、雑草、ウイルスに強い GM 作物が登場し、生産性が 5～15%上がった。乾燥や低温に強い作物の開発が進んでいる。光合成の炭酸固定反応の鍵酵素の遺伝子を組み込んだタバコは炭酸固定量と生長が 1.8 倍になったが、この成果の農作物への応用が急がれている。

悩みは食糧だけではない。1 億数千万年かけて蓄積された石油の 44%を 20 世紀の 100 年に使った。その結果、大気中の CO₂が増え、地球温暖化をもたらしている。この調子で石油を使えば、2050 年頃には枯渇する。そこで、植物バイオマスを燃料やプラスチック原料に変えることで化石資源使用量を減らす試みが活発になってきた。光合成により年間生産される植物バイオマスのエネルギー量は化石資源エネルギー使用量の 10 倍ある。したがって、植物バイオマスの 10%を化石資源由来の工業原料や燃料に利用するか、植物バイオマスを 10%増産できれば、石油は不要になり、CO₂も増えない。ブラジルではサトウキビから燃料用エタノール、アメリカでもトウモロコシデンプンからエタノールや生分解性プラスチック原料の乳酸の生産が活発である。しかし、食糧供給と競合させないためには、植物バイオマスの増産が必須である。GM 技術により、石油に代わる工業原料を増産する経済産業省プロジェクトが進行している。これが成功すれば持続可能な社会が実現する。2004 年春、セルロース系バイオマスから燃料用アルコールを生産するビジネスに、シェル石油がバックのカナダのベンチャー企業、IOGEN が成功したと発表した。これも未来に大きな希望を抱かせる。

石油の世紀であった 20 世紀から、植物バイオマスの世紀に替わろうとする 21 世紀、植物力の強化(植物工学)と活用(生物工学)に国を挙げて取り組まなければ、豊かな日本の存続はあり得ないだろう。21 世紀、「植物力」が国を制する。

参照：新潮選書 新名惇彦著「植物力」平成 18 年 7 月発行

「好アルカリ性因子」として見いだされたマルチ遺伝子型 Na⁺/H⁺対向輸送体(Sha 輸送体)の多機能性

平成 3 年卒 古園 さおり
(独立行政法人理化学研究所 工藤環境分子生物学研究室)

ある種の細菌は高いイオン恒常性維持能力を持つことにより、偏った、あるいは変動するイオン環境に適応するロバストさを持つ。Sha 輸送体は、好アルカリ性 *Bacillus halodurans* の「好アルカリ性因子」として理研の当研究室により初めて同定された Na⁺/H⁺対向輸送体である⁽¹⁾。Sha 輸送体は、アルカリ環境下での生育に必須な pH 恒常性維持機能を担っていた。しかしその後のゲノム解析の進展から、好アルカリ性ではない数多くの中性菌にも Sha 輸送体ホモログが見つかった。当研究室では Sha 輸送体の機能解析を体系的に進め、Sha 輸送体は中性菌においては主要な Na⁺恒常性維持機能として働いており、孢子形成(枯草菌)や病原性(緑膿菌)においても重要な役割を持つことを明らかにした^(2,3)。また近年の報告から、植物感染(根粒菌)、光合成(シアノバクテリア)、亜硝酸酸化(アグロバクテリウム)、抗菌物質に対する感受性(黄色ブドウ球菌)など、Sha 輸送体は細菌の多様な形質に関与することが明らかになりつつある。

Sha 輸送体は保存された 7(6)遺伝子にコードされる特徴を持ち、対向輸送体としては珍しいマルチサブユニット構造を持つと推測されている。このマルチサブユニット構造は、Sha 輸送体の高い pH/Na⁺恒常性維持能力と密接に関連すると予想される。また一部の Sha 蛋白質は、H⁺輸送性の一次輸送複合体(呼吸鎖複合体 I や膜結合型ヒドロゲナーゼなど)の構成蛋白質と相同性を示す。Sha 輸送体の複合体構造や輸送メカニズムはまだ明らかではないが、遺伝子構造や蛋白質配列の点から他の Na⁺/H⁺対向輸送体とは異なるメカニズムを有している可能性も考えられる。

1994 年に発見された当初、Sha 輸送体は既知の Na⁺/H⁺対向輸送体のいずれとも全く相同性を示さず孤立した存在であった。現在では、公開されている細菌ゲノムの約 1/3 に Sha 輸送体ホモログが見つかり、そこには様々な環境に生息する菌が含まれる。Sha 輸送体はアルカリ環境への適応に特化した役割を持つのではなく、pH／塩環境への適応に関わる普遍的な因子ではないかと考えている。

- 1) Hamamoto T. *et al. Mol.Microbiol.* 14:939-946 (1994).
- 2) Kosono S. *et al. J. Bacteriol.* 182:898-904 (2000).
- 3) Kosono S. *et al. J. Bacteriol.* 187:5242-5248 (2005).

大阪大学 - KAIST 2006 年 日韓学生交流会

工学研究科 生命先端工学専攻 生物工学コース
博士前期課程 1 年 平野美紀

私は、2006 年 8 月 8 日～11 日の 4 日間の日程で開催された、大阪大学-KAIST の日韓学生交流会に参加しました。この交流会は、お互いの研究を紹介し合い、親睦を深めることを目的として、2 年毎に大阪大学と KAIST で交互に行われており、今回は大阪大学側が主催でした。私は、交流会の世話役の一人として参加したこともあり、KAIST の学生と接する時間も長く、非常に充実した 4 日間を過ごすことができました。

<1 日目>

世話役 5 人で、関西国際空港に KAIST からの参加者一行を迎えに行きました。KAIST 側の教授、学生代表と挨拶を交わした後、バスに乗り込み、昼食会場へと向かいました。和食レストランでの昼食中は、まだ旅の疲れが残っているためか、緊張のためか、比較的静かな感じでしたが、出された和食を気に入ってくれたようで、料理の写真を撮っている学生もいました。夜は、阪大内のレストラン「ラ・シェーナ」で阪大の先生方、学生を交え、総勢 60 名程で歓迎会を催しました。日本側の学生代表の小林さん、原島教授の挨拶の後、全員が自己紹介を行いました。みんなが思い思いに、自分の好きなこと、趣味、知っている両国の俳優のことなどを話し、楽しい自己紹介タイムとなりました。中にはこの自己紹介のために韓国語で挨拶を覚えてきた日本人学生、日本語での挨拶を覚えてきた KAIST の学生もあり、関心を集めていました。立食形式の食事だったこともあり、日韓両方の学生同士も随分打ち解けて、和やかな雰囲気の中で食事を楽しむことができました。



集合写真(シンポジウム終了後)

<2 日目>

大阪大学の GSE コモンイースト棟の会議室を使用して、朝 9 時から夕方 6 時までシンポジウムが行われました。最初に、KAIST の Tae Gwan Park 教授の挨拶及びビデオでの KAIST の紹介があった後、2 部屋に分かれて、計 42 名が英語で研究発表を行いました。日本人の学生の中には、英語での発表は初めてで、緊張した面持ちで臨んでいる人もいれば、慣れた感じで流暢な英語を話している人もいました。私は、研究室以外での研究発表は初めてで、それも英語での発表だったので非常に緊張しましたが、発表が終わった後は大きな達成感が得られました。KAIST の学生も緊張の様子は見受けられましたが、普段から英語での授業を受けているということもあり、比較的慣れた感じでの発表でした。今回のシンポジウムでは、どちらの発表の場合も多く質問が出ており、制限時間いっぱいまで活発な議論がなされていました。どちらも、バイオテクノロジーに関する研究を行っている学生として、よい刺激を受けることができたのではないかと思います。全員の発表終了後、阪大の原島教授の挨拶で締めくくられ、シンポジウムは大成功に終わりました。夕食は、屋外でのバーベキューで、肉や野菜を焼きながら、日韓の食事について語ったり、互いの研究の話をしたり、流行の音楽やテレビの話をしたりと、会話も非常に盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。

<3 日目>

朝から夕方まで、京都観光をしました。最初に向かったのは、亀岡のトロッコ列車の駅で、そこからトロッコ列車に乗って、嵐山の駅に向かいました。天気が良かったこともあり、途中、トロッコの車窓から見える保津川の景色は非常に美しく、KAIST の学生も喜んでくれているようでした。観光の自由時間は主にグループ行動で、各グループ(阪大の学生 3 名、KAIST の学生 3 名の計 6 名)で、嵐山を散策しました。私たちのグループは、天竜寺を拝観した後、昼食をとり、渡月橋付近を見て回りました。ほとんどの KAIST の学生が、日本の寺院を訪れるのは初めてだったようで、建築様式や庭園などにも興味を示してくれ、

一緒にたくさんの写真を撮りました。

嵐山散策終了後はバスで清水寺へと移動し、再びグループで、周辺を散策しました。清水寺まで続く坂道には多くの土産屋が軒を連ねており、KAIST の学生は下駄やちりめんの財布、人形など、日本の伝統工芸品にも興味津々のようでした。清水寺では、舞台からの眺めが美しく、夕日に染まる京都を一望できました。

この頃には、阪大生も KAIST の学生も非常に打ち解けて、一緒にはしゃいでいました。その後、京都市内の日本料理の店へと移動し、一日の観光を振り返りながら夕食を取りました。



グループでの観光(嵐山にて)

<4 日目>

ついに最終日となりました。午前中、バスで大阪城公園へと移動し、周辺を散策しました。KAIST の学生は大阪城の歴史にも非常に興味を持ち、暑い中、熱心に見入っていました。昼食を取った後、関西国際空港へと向かいました。そして、いよいよお別れの時がやってきました。KAIST と日本の学生は、握手をしたり、抱き合ったり、写真を撮り合ったりして、互いに別れを惜しましました。最後に、KAIST の先生、学生から感謝の言葉を伝えられた時は、心が熱くなりました。

今回の交流会では、本当にたくさんのものでることができました。この経験をこれからの研究生活、今後の人生に活かしていけるよう努力したいと思います。そして、2 年後の交流会にも、多くの学生が参加し、このような素晴らしい経験をしてくれることを願っています。

最後に、今回の大阪大学-KAIST 日韓交流会の開催にあたりまして、生命先端工学専攻、物質・生命工学専攻、バイオ情報工学専攻の各講座、ならびに同窓会から多大なる援助をいただきました。ここに厚くお礼を申し上げますと共に、今後とも皆様のご支援、ご指導の程をよろしくお願いいたします。

<<同窓会通信>>

● 同窓生からのメッセージ(平成 17 年 順不同)

個人情報が含まれていますので web では省略しています。

同窓会の名称について：新しい短い名称を募集しております！！

現在、同窓会の名称は、過去の教室名を並べて、「大阪大学工学部醸造・醗酵・応用生物工学科同窓会」と非常に長いものになっています。更に、大学の法人化後には、工学研究科の専攻再編成が実施され、旧物質・生命工学と一緒に専攻を形成し、「生命先端工学専攻生物学大講座」となりました。大学院生は「生命先端工学専攻生物学コース」に所属することになっています。つきましては、従来以上に長い名称をつけることは大変不便であると考え、短い名称を付けてはというご意見がありました。

先般、副会長等が集まり相談しました結果、「醸成(生)会」、「尚醸会」、「温醸会」などの名前が挙げられました。「醸成(生)会」は、文字通り醗酵の醸成を意味しており、“生”の場合は生物学の“生”とかけています。「尚醸会」の尚は、「状態や程度がいちだんと進むさま。さらに。もっと。いっそう。」などの意味があるようです。また、「温醸会」は字の通りです。

つきましては、会員の皆様からも名称の提案を頂ければ幸いです。ご提案がありましたら以下にお知らせください。

手紙：〒565-0871 吹田市山田丘 2-1 大阪大学生物工学国際交流センター
関 達治

FAX: 06-6879-7454

E-mail: sekit2@icb.osaka-u.ac.jp

会長等の選任について

現在、会長をお願いしております芝崎勲先生から、高齢につき会長職を辞退したい旨ご連絡をいただきました。副会長以下、常任委員で検討をさせていただいた結果、ご事情を察し、新会長等の役員を選任することといたしました。芝崎先生には名誉会長へのご就任をお願いしたいと考えております。新役員は現役員会で候補を推薦し、来る11月10日の総会にておはかりいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

幹事長 関 達治

大阪大学中ノ島センターへのアクセス



電車でお越しの場合；

- ・阪神本線 福島駅/JR 東西線 新福島駅より 徒歩約 9 分
- ・JR 環状線 福島駅より 徒歩約 12 分
- ・地下鉄四つ橋線 肥後橋駅より 徒歩約 10 分
- ・地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅より 徒歩約 16 分

タクシーでお越しの場合；

「大阪市立科学館 北側の『大阪大学中之島センター』」とお伝えください。

(Webでは省略)

大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学同窓会会則

1. (名称)
本会は大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科同窓会と称する。
2. (会員の構成)
本会は次の会員で構成する。
 - (1) 正会員
イ 大阪大学応用自然科学科応用生物工学コース、同大学大学院工学研究科応用生物工学専攻(以下教室と言う)およびそれらの前身学科、専攻の出身者。
ロ 上記イの教室および付則に示す関連講座の旧教官・教員、現教員および現職員。
ハ 上記イの教室および付則に示す関連講座に関係のあるもの(旧職員、研究生、実習生など)で、入会を希望し会長が承認したもの。
 - (2) 名誉会員
会員の中から幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (3) 賛助会員
本会の趣旨の賛同し、付則に定める会費を納めるもので幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (4) 学生会員
大阪大学工学部応用生物工学コースおよび同大学院工学研究科応用生物工学専攻に所属する学生。
3. (目的)
本会は会員相互の親睦を図り教室の発展に寄与することを目的とする。
4. (所在地)
本会の事務所は教室内に置き、会員の希望により支部を設けることができる。
5. (役員)
本会には次の役員を置く。
 - (1) 会長 1名 正会員の中から総会で選出する。
 - (2) 副会長 2名 正会員の中から会長が推薦し、総会で承認する。
 - (3) 幹事長 1名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (4) 常任幹事 若干名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (5) 幹事 若干名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (6) 監査 2名 正会員の中から総会で選出する。
6. (役員の任務)
本会役員の任務は次のとおりである。
 - (1) 会長は本会を総理する。
 - (2) 副会長は会長を補佐する。
 - (3) 幹事長は常任幹事を総括して会務を掌理する。
 - (4) 常任幹事は庶務、財務、企画、編集の事務を行う。
 - (5) 幹事は常任幹事を補佐する。
 - (6) 監査は本会の運営と会計を監査し、総会に報告する。
7. (役員の任期)
役員の任期は2年とし再任を妨げない。
8. (会議)
 - (1) 本会は原則として2年に1回総会を開き、役員の改選、会計報告、会則の改正、その他重要な事項を議する。
 - (2) 総会の議決には出席正会員の過半数の賛成を必要とする。
9. (会計)
 - (1) 本会運営の経費は会費およびその他の収入を持ってあてる。会費は付則に定める金額とする。ただし、名誉会員および学生会員からは徴収しない。
 - (2) 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
10. (会則の変更)

本会の会則は総会において出席正会員の三分の二以上の賛成を得て改正することができる。ただし、書面を持って賛否を表す場合は出席とみなす。

付則

1. 大阪大学応用自然科学科応用生物工学コース・同大学大学院工学研究科応用生物工学専攻の関連講座とは、大阪大学生物工学国際交流センター、同大学工学研究科物質・生命工学専攻極限生命工学講座、同大学産業科学研究所生体応答科学研究部門生体膜分子工学研究部門、同大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻代謝情報工学講座、同大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻生物共生情報工学講座およびその前身をさす。
2. 本則第9条の会費は次のとおりとする。
 - (1) 入会金 入会の際 5、000円。
 - (2) 会費 正会員は年額 2、000円。 賛助会員は年額1口 5、000円。
3. 付則の変更は役員会の議をもって行う。
4. 本会則は平成8年11月15日から施行する。
5. 卒業後50年以上の方に会費免除制度があります。

☆同窓会現組織

会長	芝崎 勲
副会長	嶋谷幸雄、 大嶋泰治
幹事長	関 達治
常任幹事	ト部 格(庶務担当) 山下光雄(財務担当)、金子嘉信(編集担当)、 大政健史(名簿担当)、藤山和仁(庶務担当)、中川浩子(庶務担当)、 四方哲也(企画担当)
監査	高野光男、永井史郎

☆会員の動向

(最近の動向がございましたなら、同窓会までご一報下さい。)

同窓会からのお願い

近年、企業合併や部署移動、市町村合併によって住所変更、所属変更となる方が増えております。自宅住所、勤務先住所等に変更のある場合には同窓会までぜひご連絡いただけましたら幸いです。お寄せ頂いた個人情報は同窓会誌発送以外には利用いたしません。

☆クラス会幹事(クラス会幹事の方には会員の所属の移動等について同窓会への連絡をお願いいたします)

昭和 12 年		昭和 39 年	藤田正憲	昭和 61 年	大政健史
昭和 15 年	石井隆一郎	昭和 40 年	新名惇彦	昭和 62 年	山本恵三
昭和 16 年	武田六郎	昭和 41 年	関 達治	昭和 63 年	向 由起夫
昭和 18 年	芝崎 勲	昭和 42 年	卜部 格	平成元年	永尾寿浩
昭和 19 年	松本 博	昭和 43 年	関口順一	平成 2 年	松本雄大
昭和 21 年		昭和 44 年	土戸哲明	平成 3 年	鈴木市郎
昭和 23 年	佐藤 勝	昭和 45 年	古川憲治	平成 4 年	内山圭司
昭和 24 年	野口祐一	昭和 46 年	山本忠行	平成 5 年	滝口 昇
昭和 25 年	足立有	昭和 47 年	島田裕司	平成 6 年	松浦友亮
昭和 26 年	辻坂好夫	昭和 48 年	曾根良昭	平成 7 年	永久圭介
昭和 27 年	松中昭一	昭和 49 年	小西喜朗	平成 8 年	金谷 忠
昭和 28 年(旧制)		昭和 50 年	中塚正博	平成 9 年	小林 肇
昭和 28 年(新制)	高野光男	〃	東浦忠司	平成 10 年	田中礼央
昭和 29 年	嶋谷幸雄	昭和 51 年	溝口晴彦	平成 11 年	永塚由佳
昭和 30 年	大嶋泰治	昭和 52 年	根来誠司	平成 12 年	井戸芳博
昭和 31 年	遠藤靖夫	昭和 53 年	金子嘉信	平成 13 年	後藤優治
昭和 32 年	向井 譲	昭和 54 年	高木 睦	平成 14 年	有岡伸悟
昭和 33 年	中桐義隆	昭和 55 年	滝沢 昇	平成 15 年	新家康弘
昭和 34 年	野本哲也	昭和 56 年	阿野貴司	平成 16 年	和田 悠
昭和 35 年	森元英雄	昭和 57 年	片倉啓雄	平成 17 年	藤井健治
昭和 36 年	戸田廣良	昭和 58 年	森川正章	平成 18 年	鳳桐智治
昭和 37 年	菅 健一	昭和 59 年	藤山和仁		
昭和 38 年	吉田敏臣	昭和 60 年	中嶋幹男		

＊ クラス幹事が空欄の学年は、その学年でご相談の上、同窓会事務局までお知らせください。

会員各位

拝啓、ますますご清祥のことと拝察します。

さて、下記記載の要領で平成 1 8 年度会費の納入をお願い申し上げます。

記

- 1) 郵便振替にて納入される場合
同封の払込通知票を用いて、最寄の郵便局にてお振込下さい。
(ご記入内容)
払込先口座番号：00920-5-83256
払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会
金額：2、000円
- 2) 郵便貯金口座自動払込を申し込まれる場合
最寄郵便局で自動払込利用申込書に必要事項を記入の上、お申し込み下さい。今後、毎年11月30日に貴口座より、年会費2、000円を自動引き落としさせていただきます。手続きの都合上10月15日までにお願い申し上げます。
(ご記入内容)
払込先口座番号：00920-5-83256
払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会
払込開始月：平成18年11月から
払込日：30日
払込の種別：会費
(注：昨年度すでに自動払込申込をされた方は新たな手続きは不要です。)

♪♪♪♪♪ 同窓生のみなさまへ会費免除のお知らせ ♪♪♪♪♪

いつも会費納入にご協力いただきまして誠に有り難う御座います。
同窓生のみなさまは卒業後 5 0 年経過しますと会費免除となります。
平成 1 8 年度は昭和 3 1 年卒の同窓生が該当致します。会誌送付や諸行事への参加などは今までと変わりありません。今年から免除になられた同窓生及びすでに免除になっておられる同窓生の皆様には、長い間会費を納入していただきまして有り難う御座いました。
今後も同窓会へのご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。



大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科

同窓会会報 第9号

平成18年9月15日 発行

印刷所 中西印刷

発行人 同窓会幹事長 関 達治(昭和41年卒業)

〒565-0871

吹田市山田丘2-1

ホームページ

<http://www.bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/>

電子メール

doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp